

# 令和5年 欧州近自然川づくり調査報告



令和6年2月

欧州近自然川づくり調査団

参議院議員足立敏之事務所作成

# 欧州近自然川づくり調査

2023.9.2 ~ 9.5

参議院議員 足立 敏之



9月1日(金)～9月5日(火)、「欧州近自然川づくり調査」でスイスを訪問しました。

4年前の第1回調査と同様、辻本哲郎名古屋大学名誉教授が団長、中村太士北海道大学大学院教授、池内幸司東京大学名誉教授、河川環境関連団体の参加者等とともに調査を実施しました。

私が参加したのは、9月2日(土)～9月5日(火)のスイスでの調査で、チューリッヒ近郊のライン川やその支川のリマト川、トゥール川、ロイス川などを調査しました。

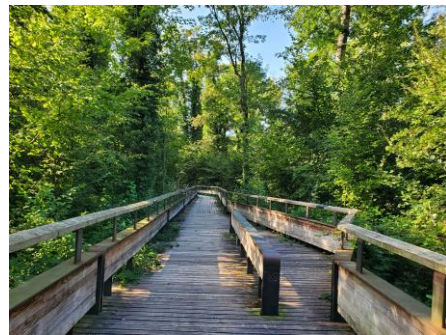
リマト川の中洲の設置や水制工など河道内構造物による再自然化、トゥール川の護岸除去や高水敷撤去による再自然化、ロイス川の高速道路を用いた多重防御や遊砂地を用いた土石流対策など興味深い事例を見させていただきました。

## 【1日目】9月2日(土)

チューリッヒ空港到着後、水域生態学コンサルタントのクロード・マイアーさんと合流し、アールガウ州のライン川やリエトハイム村における再自然化の現場であるクリー・リーを、ブルーノ・シューベルト氏(景観水域課プロジェクト担当)にご案内いただきました。この現場では、埋め立てられていた分流を掘り起こし、氾濫原の再生を進めていました。

続いて、チューリッヒ州オーバーエンクレストリンゲン村ヴェルドヘルツリに伺い、リマト川の中洲の設置や水制工など河道内構造物による再自然化の現場に伺いました。現地では、ミヒャエル・ブレックリ氏(ホリンガー社プロジェクト担当)にご案内いただきました。リマト川では、こうした再自然化の取り組みとともに、浸水被害の軽減対策として堤防の強化とトンネル放水路などの施設整備も進められているとのことでした。

なお、リマト川はチューリッヒ市街地からも近く、レクリエーション利用も進んでおり、ラフティングを楽しむたくさんの市民の皆さんで賑わっていました。

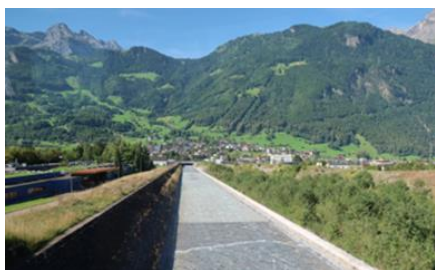


【2日目】9月3日（日）トゥール川河畔自然センターに伺い、チューリッヒ州やシャフハウゼン州での河川再自然化の取組みの状況についてロベルト・ベンツァー氏（水域生態学コンサルタントプロジェクト代表）からプロジェクト全体のレクチャーを受けました。その後、ライン川合流部のトゥール川の洪水敷切り下げによる礫河原の再生や、低水護岸撤去による蛇行の再生など、河道の再自然化の現場を調査しました。また、タールハイム村でも、低水護岸の撤去による河道の再蛇行化などトゥール川の再自然化の取組みを調査しました。その後、観光名所でもあるラインの滝に伺い、侵食による岩場の崩壊防止を目的とした近自然河川工法による補修の現場を調査しました。



【3日目】9月4日（月）ウーリ州に伺い、ロイス川のウルナー湖河口部の洪水対策の取組み状況についてベーター・ギスラー氏（ウーリ州建設局土木部河川課技師）からご説明をいただき、治水対策やデルタ再生の現場などを調査しました。ウルナー湖に流れ込むロイス川上流部における河川堤防、高速道路を活用した放水路の現地を二か所視察し、多重防御の考え方を学びました。また、遊砂地を用いた土石流対策を視察するとともに、ルツェルン湖のデルタ再生では、トンネルずりを用いたデルタの再生などについて、マニュエル・リンク氏（ウーリ州建設局自然保護課）から現地での説明をいただきました。





#### 【4日目】9月5日（火）

ベルン州の再自然化政策とアーレ川の再自然化などについて、「スイス連邦水生科学研究所(Eawag)」において、シモーネ・クネヒト氏（Eawag再活性化プラットフォーム担当）からスイスの河川再自然化政策やそのための体制などについてご説明をいただきました。この研究所は、同行いただいております、リバーフロント研究所の中村さんがかつて勤務されていた研究所で、政策の方向性などわかりやすくご説明をいただき、取り組みへの理解が進みました。感謝申し上げます。



#### 【今後に向けて】

4年ぶりの欧州近自然川づくり調査でしたが、リマト川やトゥール川などで護岸の撤去や高水敷の撤去による再自然化がより効果を発揮してきており、再蛇行化が進んでいることがわかりました。我が国でも護岸の撤去や高水敷の撤去が可能な河川をモデル的に抽出し、アダプティブマネジメントの概念により試行的に取り組んでいただきたいと考えています。

また、ロイス川の多重防御の考え方は「流域治水」を進めて行くためにも大いに参考になるもので、我が国でも高速道路などの他用途施設の活用や土砂流出を遊砂池で捕捉するような考え方を、河川整備上考慮するような施策を取り入れていただきたいと考えます。

なお、欧州近自然川づくりは、現在も進化を続けており、今後も継続的にウォッチし続けるとともに、日本の若手技術者にもスイスやドイツの技術者との意見交換会をこれからも積極的に続けていただくようお願いしたいと思います。